

2. 全体的調査概要

(1) 調査の目的

「宗像市環境基本計画」改定のための基礎調査の一環として実施する。

現行の環境基本計画策定時の基礎調査として平成17年度から平成18年度にかけて実施した自然環境調査では、宗像市の特に保全すべき対象を明らかにすることを目的とした。

今回は前回の調査から約10年が経過したことを受け、現在の自然環境の状況や変化の程度を把握し、これまで行ってきた自然環境に関する活動の評価検証を行うとともに、これからの自然環境に関する施策の方向性を探ることを目的とする。

また、自然環境の変化の傾向を捉え適切に対応するには、定期的な環境監視のしくみが必要になる。

本調査では、実際に現地調査、現況評価を行うことで、これからの環境監視の方法の検討も行った。

(2) 調査対象及び地域

1) 調査対象分野

自然環境調査の調査対象分野は、植生、植物、哺乳類、鳥類、爬虫類・両生類、昆虫類（コウチュウ類、蝶類）、水生生物の8分野とし、全体の総括として生態系のとりまとめを行った。

2) 調査地域等

①基本調査地域

調査地域は、宗像市全域とする。ただし全域の見直しを行うのは生態系の基盤となる植生のみとし、その他分野については各調査委員の判断で地域を絞り込んだうえで調査を実施するものとした。

具体的には、現行計画の基礎調査で得られた自然環境価値の最も高い地域（ゾーンⅠ）の12地域を全ての分野が調査を行う基本調査地域として設定する。このほか、必要に応じて各分野独自の調査地点を設定し、現地調査を実施した。

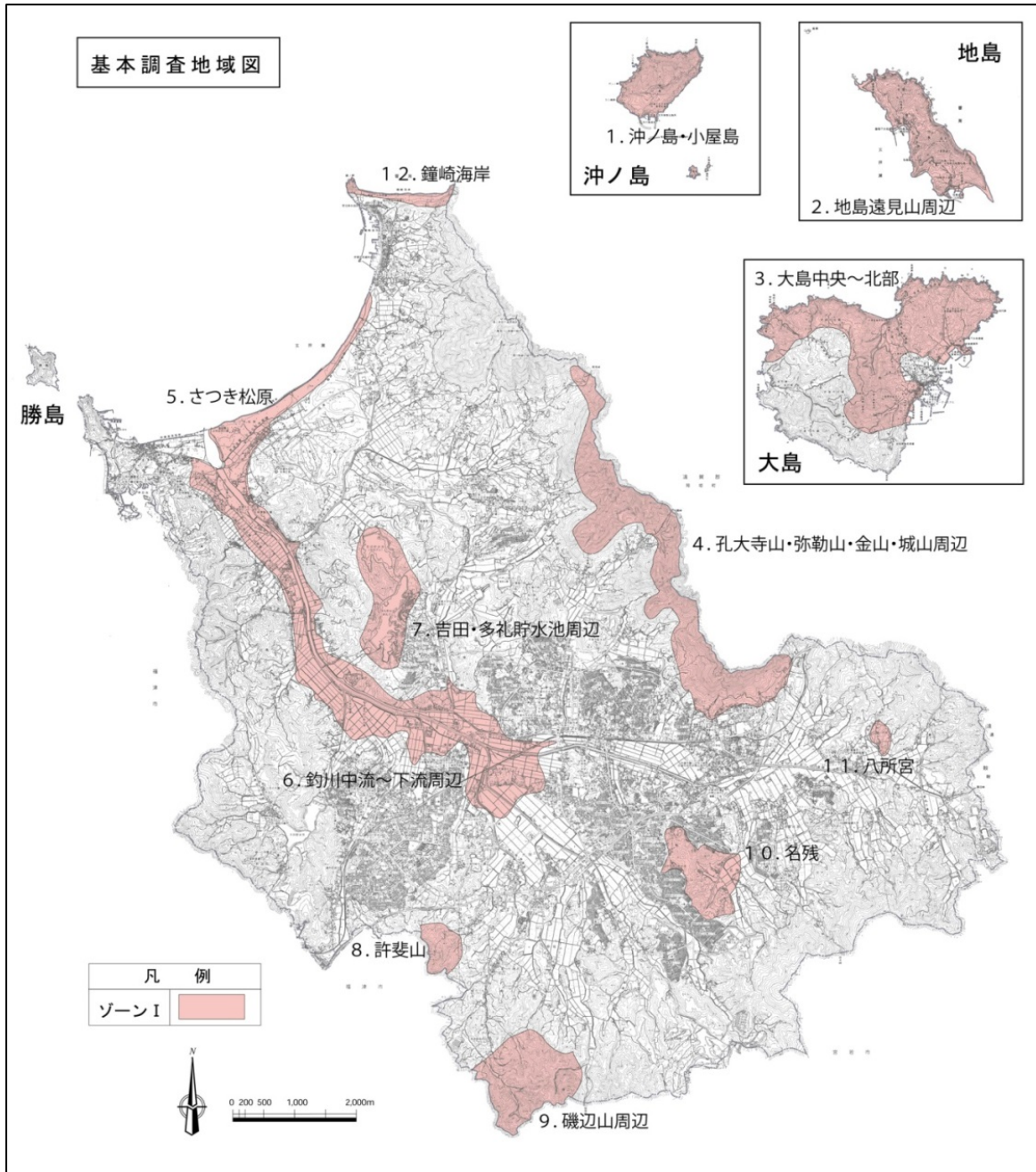
最終的には市域全体の植生の変化状況と基本調査地域・各分野独自の調査地点における現地調査結果とをあわせて、面的に宗像市全域の解析、評価を行った。

また、アライグマ、セアカゴケグモなど分布拡大の危険性のある外来生物についてもデータの収集に努めた。

なお、沖ノ島については、平成27年6月14日～15日に合同調査を行った。

②各分野独自の調査点

各分野独自の調査点は、基本調査地域では捕捉しきれない、データの収集を目的として設定した。局所的に生育する植物や、水系に依存している魚類や両生類、鳥類の渡り・繁殖の情報など、各分野独自で必要と考えられる項目の調査点を選定した。



(3) 調査期間

調査実施期間は、調査準備から結果のとりまとめまでを含めて、平成26年2月～平成29年3月までに行った。そのうち、現地調査は平成27年5月～平成28年6月の約1年間で行っている。

(4) 調査者と調査体制

調査体制を表1-6に示す。調査は、委員（地元有識者等 各分野1名）および調査や作業を補作する協力者（各分野若干名）、さらに公募により参加協力を表明いただいた市民協力者よりなる「宗像市自然環境調査研究会会員」により行った。

また調査・とりまとめは、基本的に各分野の委員が独自に計画を立てて実施したが、調査方法や価値評価の情報交換を行う場として全分野の委員による「宗像市自然環境調査研究会」を設置した。この会議は表1-5に示すとおり、計4回行った。

なおこのほか、平成29年2月には本調査の結果を宗像市民に報告する場として、環境基本計画フォーラムを開催した。

表1-5 「宗像市自然環境調査研究会」の開催状況と主な検討項目

	開催日時	会場	主な検討項目
第1回	平成27年4月13日(月) 13:30～15:30	エコロ館2階会議室	・自然環境調査の内容 ・取りまとめ方法
第2回	平成27年5月10日(日) 15:00～17:00	宗像市役所 北館1館 103B会議室	・各分野における調査・取りまとめ評価 方法の確認 ・市民協力者ガイダンスについて
第3回	平成27年11月1日(日) 13:30～15:30	宗像市役所 北館1館 103B会議室	・各分野における調査(中間)報告
第4回	平成28年11月20日(日) 13:30～15:30	宗像市役所 北館1館 103A会議室	・総合評価・課題のすり合わせ

表 1-6 宗像市自然環境調査研究会会員 (1/2)

分野	氏名	関係	勤務先・所属等	
植生・生態系	神野展光	委員(会長)	福岡教育大学名誉教授	
	唐沢重考	代表者	鳥取大学 地域学部 地域環境学科 教授	
植物	福原達人	代表者	福岡教育大学 理科教育講座 教授	
	上原博子	協力者1	福岡教育大学	
	福原美恵子	協力者2	九州大学総合博物館	
	水上守	代表者	宗像植物友の会	
	黒川康子	代表者	宗像植物友の会	
	吉田剛	協力者1	宗像植物友の会	
	小川眞喜子	協力者2	宗像植物友の会	
	松本真樹子	協力者3	宗像植物友の会	
	久保田由美子	協力者4	宗像植物友の会	
	石津陽一	協力者5	宗像植物友の会	
	綱脇牧子	協力者6	宗像植物友の会	
	阿部敏子	協力者7	宗像植物友の会	
	岩佐迪子	協力者8	宗像植物友の会	
	平井雅子	協力者9	宗像植物友の会	
藤井えり子	協力者10	宗像植物友の会		
石田由美子	協力者11	宗像植物友の会		
哺乳類	渡部登	代表者	福岡県立香住丘高等学校	
	阪本嘉信	協力者1	九州国際大学附属高等学校教諭	
	前田真里	協力者2	福岡県立光陵高等学校実験助手	
鳥類	高原和幸	代表者	日本野鳥の会福岡支部	
	岡部海都	協力者1	(一財)九州環境管理協会	
	波多野邦彦	協力者2	日本野鳥の会福岡支部	
	吉兼隆	協力者3	日本野鳥の会福岡支部	
	洪田朗	協力者4	日本野鳥の会福岡支部	
爬虫類・両生類	倉本満	代表者	福岡教育大学名誉教授	
	山根明弘	協力者1	北九州市立自然史・歴史博物館学芸員	
	菅野一輝	協力者2	九大附属水産実験所	
昆虫類	コウチュウ類	城戸克弥	代表	元小学校教員
		江頭修志	協力者1	元中学校教員
	蝶類	西田迪雄	代表	むなかた蝶類研究会・宗像植物友の会
		田中隆義	協力者1	むなかた蝶類研究会
		鈴木光	協力者2	日本鱗翅学会
		安部敏男	協力者3	むなかた蝶類研究会・宗像植物友の会
		加藤陽一	協力者4	博多昆虫同好会
水生生物	福島敏満	代表者	むなかた「水と緑の会」	
	中石敬二	協力者1	東海大学附属福岡高等学校	
	前田秀敏	協力者2	環境地域づくり研究所	

表 1-6 宗像市自然環境調査研究会会員 (2/2)

分野	氏名	関係	所属
市民協力者	岩元順二	市民協力者	
	吉松正雄	市民協力者	
	吉田博之	市民協力者	
	吉田悠美	市民協力者	
	仲家暢彦	市民協力者	
	仲家美智子	市民協力者	
	惠谷英之	市民協力者	
	宇野潔	市民協力者	(一財)九州環境管理協会
	高比良光治	市民協力者	(一財)九州環境管理協会
	桑原尚佐	市民協力者	
	原田尚輝	市民協力者	福岡教育大学 学生
	有馬悠太郎	市民協力者	福岡教育大学 学生
	山田沙緒梨	市民協力者	福岡教育大学 学生
	壹岐美咲	市民協力者	福岡教育大学 学生
	前原崇広	市民協力者	福岡教育大学 学生
	山崎慧太	市民協力者	福岡教育大学 学生
那須貴大	市民協力者	福岡教育大学 学生	

(5) 補完調査

調査は、既存資料調査、現地調査、聞き取り調査を基本として、各委員の判断により適宜取捨選択して行っているが、これら調査を補うものとして、市民や市職員から情報を得ることを目的とした調査を事務局主体で行った。これらの調査内容を以下に示す。また、調査結果は第2章以降の各分野のとりまとめに反映されている。

1) 市民協力者による情報収集

①目的

野生の生物は一般に警戒心が強く、その場に生息しているものであってもなかなか遭遇できない。調査頻度や調査者の数を確保することで、調査の精度を高めることを目的に調査への協力者の募集を行った。

また、今後環境監視を定期的に行っていくには多くの人が自然環境の現況を把握する技能を身につける必要がある。調査を通じて自然環境調査のノウハウを獲得し、次期リーダーとして活躍できる人材の育成もねらいとした。

②方法

宗像市の広報紙で募集を行い、平成27年5月17日(日)に希望者へのガイダンスを行った。市民協力者の方には動植物の確認情報(内容、対象物の写真、位置図)を季節別に提出してもらうとともに、各分野での調査の補助をお願いした。なお、提出いただいた確認情報は季節別に速報としてとりまとめ、関係者に配布し、情報の共有を図った。

2) サンプル(死体)収集

①目的

現地調査では確認が困難な、哺乳類の分布状況を補完するための調査。礫死体を調査することにより、足跡や糞のような動物の生息痕だけでなく動物そのものを確認することを目的とする。

②方法

公共の場所(道路、公園など)で死んでいた動物の収集記録をもとにデータの整理を行った。

収集記録には市民などからの通報を受けて死体の収集を行った記録(ゼンリンの地図による位置情報あり)と収集業者が家庭ゴミの収集ルートで発見して収集を行った記録(大字等の名称のみで位置図なし)の2種類があり、それぞれの記録から犬、猫以外の情報を抽出し、分析した。

なお、資料は平成23年度から26年度までの過去4年間の資料を用いている。

3) 有害鳥獣捕獲情報

①目的

現地調査では確認が困難な、哺乳類の分布状況を補完するための調査。有害鳥獣捕獲で市に届け出のあった内容を取りまとめることで、生息種、宗像での分布状況を把握することを目的とする。

②方法

「鳥獣被害防止緊急捕獲等対策における有害捕獲確認」による届け出書類（平成26年～平成27年）より、整理を行った。書類はイノシシ、シカ、アナグマ、アライグマ、ハト、カラス、ヒヨドリ、ドバト、ハクビシンの9種を対象とした市指定有害鳥獣駆除員（平成26年現在約80名）の報告による。